

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、水産海洋技術センターからの情報を、漁業者や県民の方々にお知らせする情報誌です。

VOL.74

発行/令和4年1月



筑前海で水揚げされたマアナゴ

調査・研究情報

- 福岡県海況情報提供システム「うみえる福岡」の運用開始…………… 2
- 筑前海におけるアカモク増殖手法の開発…………… 3
- カキの新たな養殖技術（水平垂下方式）の開発…………… 3
- エツ種苗生産の省力化技術の開発…………… 4

普及だより

- 「じさかなび福岡」を活用した地魚PR…………… 4

福岡県水産海洋技術センター

〒819-0165 福岡市西区今津 1141 番地 1

TEL:092-806-5251 FAX:092-806-5223

センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>

調査・研究情報

福岡県海況情報提供システム「うみえる福岡」の運用開始

有明海のノリ養殖は、広大な干潟に支柱を建てる支柱式で行われています。この支柱式養殖では、水温、塩分（比重）などの海況をみながらノリ網を空気中に露出させる（干出）時間を調節することで、病害を予防するとともに、旨味成分のアミノ酸を多く含んだ高品質のノリを生産することができます。

福岡県の漁場には、筑後川と矢部川の2つの一級河川が流入しているため、大きな干満差に伴い水温、塩分（比重）などの海況が短時間に変動します。このため、養殖期間中は、海況を細かく把握し、適切な管理を行うことが大切です。

そのため、令和2年度から観測機器を一新し、海況情報を10分間隔で観測し、スマートフォン等にリアルタイムで提供できるシステムに更新し、「うみえる福岡」として運用を開始しました。「うみえる福岡」はこれらの海況情報に加えて、有明海研究所が実施する漁場調査結果を閲覧できるようにしているほか、会員登録をすることにより、必要な情報だけを取り出せるよう設定できるシステムとなっています。

アクセス状況を見ると、10月以降、アクセス件数が増え、採苗日や3枚展開、赤潮の発生など、養殖管理の節目でピークがみられており、漁業者の皆さんにしっかりと利用していただいていることが分かりました。

県では、今後とも、これらの情報を提供し、ノリ養殖の安定生産を支援していきます。



「うみえる福岡」トップページ

(有明海研究所のり養殖課)

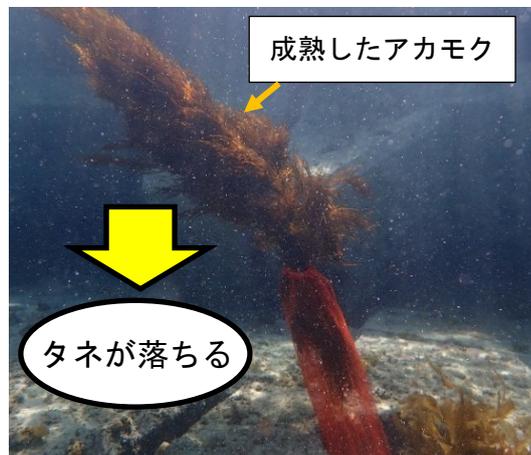
筑前海におけるアカモク増殖手法の開発

アカモクは全長 10mにもなる大型の海藻です。筑前海の複数地先で利用加工されており、道の駅や直売所、スーパーなどで販売されて人気を博しています。このように、磯根資源として重要な海藻ですが、産地では資源の減少が心配されています。

アカモク資源の増殖手法としては、成熟したアカモクを漁場に投入し、そのタネを供給する母藻投入が有効です。そこで今回、水産海洋技術センターでは、アカモクの好む生育環境や、母藻の投入間隔について検証しました。

その結果、アカモクが成熟する 3～4月に、太陽光が海底まで射し込む比較的明るい漁場において、2m間隔で母藻を投入することで、隙間なくタネを供給でき、効率的に藻場造成できることが分かりました。

この手法は、簡便かつ低コストで実施できることが特徴です。今後も産地と連携しながら、アカモク資源の増殖に取り組んでいきます。



母藻投入の方法

(水産海洋技術センター浅海増殖課)

カキの新たな養殖技術（水平垂下方式）の開発

豊前海におけるカキ養殖業は、「豊前海一粒かき」のブランド化の取組みなどによって発展し、現在、海区の基幹産業に成長しています。しかしながら、当海区はカキ養殖に適した静穏域の水域面積が狭く、また、水深 10m以浅の漁場が多いことから、生産をさらに増大させるためには、養殖密度を高め、単位収量を増やす必要があります。

このため、コレクター（カキ種苗が付着したホタテ貝殻）をロープに挟み込んで垂下する従来の方式を改良し、コレクターの中心にロープを通して水平に配置する方式（水平垂下方式）を考案しました。

この方式では、従来の方式に比べて、コレクター間の潮通しが良くなることで、イカダ全体の餌料環境が改善され、カキがより多くの餌（プランクトン）を取り込めます。その結果、カキの成長が良く、収穫量も多くなることが確認できました。

今後は、カキ養殖の生産拡大に向けて、この新たな垂下方式の普及に努めていきます。



従来の方式（左）と水平垂下方式（右）



水平垂下方式でのカキ育成状況

(豊前海研究所浅海増殖課)

エツ種苗生産の省力化技術の開発

エツは筑後川及び有明海湾奥部に生息する魚で、5～7月に筑後川に遡上したものが漁獲されます。かつては100トンほど漁獲されていましたが、近年では20トン前後で推移しており、下筑後川漁協では平成11年から資源増殖のためエツの種苗生産に取り組んでいます。

種苗生産の技術開発では、試行錯誤を繰り返し、生物餌料の栄養強化などの技術改良を進めた結果、生残率や種苗活力が向上し、安定的にエツの種苗を確保できるようになりました。ただし、生物餌料を中心とした生産方法は多大な労力が必要なため、省力化には生物餌料から配合餌料への転換が重要な課題となっています。

このため、県では配合餌料を使った飼育に取り組んだところ、エツは摂餌時間が長く、すぐに沈んでしまう配合餌料では十分に摂餌できないことが分かりました。そこで、水槽内の水流を工夫し餌の浮遊時間を長くしたことで摂餌が促され、生残率の向上につながりました。今後も配合餌料による省力化を進め、大量かつ安定した種苗生産技術の開発に取り組んでいきます。



エツ稚魚（40日齢）

（内水面研究所）

普及だより

「じざかなび福岡」を活用した地魚PR

県魚食促進サイト「じざかなび福岡」は、魅力ある地魚に関する様々な情報の発信の場として、令和元年度にスタートしました。現在、美味しい地魚を食べられる「ふくおかの地魚応援の店[※]」や直売所での地魚の出荷状況、地魚のお勧めレシピ、地魚に関するイベントの開催状況などの情報をお届けしています。

また、産地で地域をあげて行われる地魚フェアについては、イベントの実施状況などを盛り込んだ特集ページを作成し、積極的にPRしています。本年度は、宗像のアナゴや糸島の特鮮本鱈について特集ページを作成し、PRを行いました。

今後も、地魚に関する様々な情報を随時発信し、その魅力を皆様に伝えていきます。

※県が認定した県産水産物を積極的に取り扱っている飲食店や直売所など

第7回糸島さわらフェア参加店舗一覧

各店で扱うさわらは全て天然物です。
※仕入れの状況により、さわら料理をご用意出来ない場合があります。事前に各店に確認してください。

志摩の海鮮丼屋 （志摩市）
☎ 092-327-4033 〒919-1311 志摩市志摩町御崎33-1 [詳細メニュー](#)

糸島の特鮮本鱈特集ページ

（水産海洋技術センター企画経営課）